

令和3年度「近江楽座」プレゼンテーションならびに審査 全体講評

「近江楽座」は、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」をコンセプトに、滋賀県立大学が全学的に取り組んでいる独自の教育プログラムです。

平成16年度の文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採択され、3年間の取組を経て、平成19年度から本学独自の予算で運営しています。この間、多くの地域で、地域の人たちに支えられ、活動フィールドや拠点を拡げ、様々な活動を展開しています。これまでの17年間で延べ380のプロジェクトが活動し、参加した学生は延べ約8,100名になります。

継続して取り組むことによって、地域にしっかりと根をおろし、地域と一体化しているプロジェクトや独自のスタイルを確立し、それぞれの分野で大事な役割を担っているプロジェクト、また自立できる活動へと展開を図っているプロジェクトも見られます。そしてプロジェクト同士が互いに連携し、近江楽座全体の力を高めています。

近江楽座は学生の様々な学びをつないでいく実践教育の場として学生の成長を促しており、また地域に根付いた活動として国内外から注目されています。

4年前からは、よりよい未来社会を多くの人たちと共に創っていくSDGsという世界共通の目標の達成に向けて取り組んでいます。

募集する活動については、すべてSDGsとの関わりを意識し、SDGsの考え方や取組を地域や社会に広げていくとともに、コロナ禍・コロナ後の社会を見据えた新しい取組にもチャレンジすることを求め、Aプロジェクト（学生主体型プロジェクト）の3つの区分【昨年度までの継続活動を対象とした①「継続プロジェクト」、新規活動を対象とした②「新規プロジェクト」、更に③Sプロジェクト（これまでの実績をもとにステップアップをめざすプロジェクトで、活動資金の助成を必要としないもの）】に、地域課題解決に向けた地域協働の取組を広げていくためBプロジェクト（地域協働プロジェクト）＜発掘型＞の枠を加え募集しました。

その結果、応募件数はAプロジェクト22件（継続17（うちSプロ1件）、新規5）、Bプロジェクト（発掘型）0件と、昨年度（22件）と同数の応募がありました。

また新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、応募プロジェクトには、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための近江楽座活動指針」を踏まえ、地域の方々や団体等と感染拡大防止策をはじめ、活動方針を協議してもらい、活動の安全対策をしっかりと考えてもらいました。

6月13日（日）、全プロジェクトを対象とするプレゼンテーションを3つのセッションに分け、入替制で行いました。学生たちは、発表4分、質疑応答3分、合計7分という短い時間で、自分たちの活動目標や内容、意気込み、SDGsとの関わり、新型コロナウイルス感染拡大防止対策などについて熱のこもった発表を行いました。

審査員は5名のうち3名が学内、2名が学外の委員で、近江楽座や地域活動の経験が豊富な本学の卒業生にもお願いし、それぞれの活動発表に対して、鋭い質問や丁寧なコメント、評価、アドバイスをいただきました。

「新メンバーの集め方」や「活動の積極的な情報発信」、「より興味を持ってもらえる伝え方」、「来場者のコロナ対策」、「オンラインを活用した交流やイベント、販売」、「楽座の中での連携や他団体との連携」、「しくみやシステムの横展開、ノウハウの指導」、「収益を上げる方法」、「制約がある中でのモチベーションの上げ方」、「学生から学生へのつなぎ方」、「プロジェクトの閉じ方、終わりの

デザイン、価値の共有」、「地域への深いまなざし」、「地域の課題解決や地域活性化と学生の関わり」、「いろんなメンバーが関わるおもしろさ」等のキーワードが出され、学生たちも改めて自分たちの活動の意味や役割を問い直し、今後の活動を考える上で有意義な意見交換が行われました。

最後に、わかりやすいプレゼンテーションの仕方や地域と学生たちが活動を通じて共に育っていく近江楽座の活動の蓄積についてもコメントがあり、自分たちの活動を客観的に評価、再確認するまたとない機会となりました。

プロジェクトの申請書とプレゼンテーションの結果をもとに、引き続き審査会を行い、「安全対策（基本）」を確認し、「1.地域志向性」、「2.発信性」、「3.実現性」、「4.発展性」、「5.未来志向性」の5つの視点から評価し、限られた予算を有効に活用できるよう厳正に審議し、別掲の22件を本年度の「近江楽座」のプロジェクトとして採択することにしました。

今回のプレゼンテーションと審査会を通じて、次の7つのことが確認されました。是非、実践してください。

1. コロナ禍・コロナ後の社会を見据え、新しい活動のあり方、やるべきことを考え実践する。
2. 活動の安全確保を充分に行い、事故を防止する。無理をしない。
3. 地域との信頼関係を築き、自分たちの思いを大事にして、主体的に活動する。
4. 誰に対して何を、何のために行うのか、活動や事業の目的・目標を明確にする。また事業収支やデータを押さえ、効果や成果をきちんと出していく。
5. 楽座同士で連携を図るとともに、外に目を向け、同じ分野、テーマで活動する団体とも連携して、自分たちの取組を地域や社会に広げていく工夫をする。
6. 活動のミッション、ビジョンを確認し、メンバーで共有し引き継いでいく。
7. 活動の積極的な情報発信を行う。

これから本年度の活動がスタートします。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、毎月の活動計画と活動報告書を作成し、感染防止対策に万全を尽くして下さい。今後の感染状況によっては、活動内容を柔軟に変更し、無理をしないで下さい。

また、みなさんの取組が今後、大学が地域と関わる活動の新しいモデルになっていきます。学生のみなさんの行動力や斬新なアイデアを生かして、大学と地域をつなぐ担い手として、それぞれの活動に取り組みまれ、近江楽座が更に発展することを期待しています。

なお予算執行など、活動説明会を6月22日（火）12:30～13:00、交流センター研修室1～3で開催しますので、必ず参加して下さい。

令和3年6月18日

令和3年度「近江楽座」プロジェクト選定委員会
近江楽座専門委員会



令和3年度「近江楽座」採択プロジェクト一覧

番号	区分	チーム名	プロジェクト名	採択額
1	継続	政所茶レン茶`ー	政所茶レン茶`ー	260,000
2	新規	県大ラジオ部	県大ラジオ部	260,000
3	継続	とよさと快蔵プロジェクト	とよさと快蔵プロジェクト	280,000
4	継続	BAMBOO HOUSE PROJECT	BAMBOO HOUSE PROJECT	280,000
5	継続	フラワーエネルギー「なの・わり」	フラワーエネルギー「なの・わり」	100,000
6	継続・Sプロ	あかりんちゅ	あかりんちゅ	—
7	継続	ボランティアサークル Harmony	障がい児・者、自立支援 ・共生社会プロジェクト	180,000
8	継続	未来看護塾	未来看護塾	100,000
9	継続	とよさらだプロジェクト	とよさらだプロジェクト	90,000
10	新規・Bプロ	沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	200,000
11	継続	Taga-Town-Project	Taga-Town-Project	90,000
12	継続	廃棄物バスターズ	廃棄物バスターズ	210,000
13	新規・Bプロ	竹林GAKU	犬上川竹林整備プロジェクト	200,000
14	継続	たけともミライ	たけともミライ	210,000
15	継続	座・沖島	座・沖島	100,000
16	継続	おとくらプロジェクト	おとくらプロジェクト	150,000
17	継続	滋賀県大生き物研究会	内湖の再生と地域の水辺コーディネート	60,000
18	継続	田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム	田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム	200,000
19	継続	スチューデント・キュレイターズ	地域博物館プロジェクト	180,000
20	継続	Jesuit House Project	Jesuit House Project	180,000
21	新規・Bプロ	オオリヤロウ	男鬼里山集落再生プロジェクト	150,000
22	新規・Bプロ	お山さんありがとさん	お山さんありがとさん	100,000

※「S」はSプロジェクト、「B」はBプロジェクト<発掘型>